

ISBN978-4-8167-0897-8  
C0050 ¥1500E

定価:本体1,500円+税  
西日本新聞社



9784816708978



1920050015009

●九州工業大学沿革

1909年 私立明治専門学校開校

1921年 官立移管

1944年 明治工業専門学校に改称

1949年 九州工業大学設置

# 明専会100年の群像

明専と  
九州工大の伝統

一般社団法人明専会編

# 明専会 100年の 群像

明専と  
九州工大の伝統

一般社団法人明専会編

産業史に名を刻む先駆者は  
ここから巣立った。  
技術者、経営者、教育者として  
近代日本の礎を築いた  
「技術に堪能なる士君子」の  
功績を掘り起こす。



世界初の鋼塊鑄型と  
ロール・ローラー肉盛技術を開発

# 山本秀祐

Hidesuke Yamamoto

1906-1981

冶金工学科・昭和4年卒業

富士工業所(現フジコー)創業、黄綬褒章、全国発明表彰、日本溶接協会賞

山本秀祐は1952年に45歳で創業した「富士工業所(現フジコー)」で金策に追われつつも溶接研究の陣頭に立ち、汗と油の中で昼夜取りつかれたように研究を続けた。その結果、溶損した鑄型の修理に世界で初めて成功した。この成功によって富士工業所は創業3年目にしてようやく事業を軌道に乗せた。当時製鉄所で用いられる鑄型は、破損や亀裂が生じた場合は復元不能として廃棄していた。これを溶接で復元修理することにより、鉄鋼業界の多大なコストダウンに貢献した。

山本は兄の経営する山本工作所を退社し富士工業所を創業するに当たり、強力な人脈を頼りに、八幡製鐵所製鋼部で挿入箱の歪取り作業を既存業者から請け負って、当面の生計

を立てようと目論んでいた。しかし、指定業者でもない一個人には発注できないとはつきり断られた。以来「発明技術で事業を開く」方針で事業拡大を果たした。

この修復技術は後に、直接溶接法に替えて間接溶接法を採用することにより、強度も向上、全高炉メーカーから受注するほどに普及した。さらに次世代技術と狙いをつけた「ロール・ローラーの肉盛技術」の研究を開始。55年に耐摩耗性の高い「特殊鑄かけ肉盛法」の開発に成功。67年に「連続鑄かけ肉盛溶接法」に到達した。このように富士工業所は順調に事業を拡大し、オイルショック直後の74年には従業員が1400人に達した。

だが鉄鋼業界では70年頃から製鋼

工程での造塊法が分塊法からロシア発の連続鑄造へと転換が始まった。85年には連続鑄造比率が90%に達し、鋼塊鑄型の終焉が近づいた。この事業環境の変化を、300もの特許を出願した富士工業所の技術開発力で乗り切ってきた。後にCPCプロセスと名付けた超高速鑄かけ溶接は鋼に鑄鉄の肉盛ができることと、

その耐用性の高さから大手ブランドメーカーが起用することとなり、より大きな市場である圧延ロール・搬送用ローラー事業への転換を果たした。

(突田芳宏・川邊英二提供、「フジコー20年史、60年史」/植山高次編集)



山本秀祐

## 創業までの苦闘

山本の創業が成功に至ったのは次のような苦闘と努力の経験が糧となつた。明専では真理の探究に情熱を傾けつつ、人情の機微を知り義侠心を養つた。世界大恐慌・就職難の真つただ中に卒業。実社会は中山悦治商店(現中山製鋼所)からスタートした。中山社長の厳しい闘魂に感銘を受け、同時に現場の人を大切にすることを学ぶ。

呉海軍工廠製鋼部では、厳しい軍の機密にもかかわらず、製鋼、鍛造、熱処理の各工場で研鑽を積み、学問の実用化に関するノウハウを会得した。「林兼重工業」では鋼塊の熱処理を漁船製造へ応用し、一躍至宝の存

【山本秀祐略年譜】

- 1906…8月17日福岡県宗像町(現宗像市)生まれ
- 1925…福岡県立宗像中学校卒業／明治専門学校冶金工学科入学
- 1929…明専卒業／中山悦治商店(現中山製鋼所)入社、半年後召集で入営
- 1932…呉海軍工廠製鋼部に移籍、2年後工場稼働の責任を負う技手に抜擢
- 1940…林兼重工業へ移籍、翌年3度目の応召
- 1942…林兼重工業へ復職、多大な業績で工場長、4度目の応召でスマトラ(インドネシア)へ
- 1946…復員、実兄が経営する山本工作所へ移籍、後に専務取締役
- 1952…富士工業所(現フジコー)を創業、溶接による鋼塊鑄型復元技術を開発
- 1966…黄綬褒章(鋼塊鑄型の修理法〈特殊鑄かけ肉盛法〉)
- 1967…連続鑄かけ肉盛溶接を開発、業容を拡大
- 1971…発明協会より全国発明表彰
- 1974…岡山県に山陽工場を建設して超高速肉盛法を事業化、従業員は1400人に達する
- 1978…日本溶接協会賞「貢献賞」
- 1981…10月27日逝去(享年75)

争である」  
 「企業は止まったら終わり」  
 「若さの精神(①良く勉強する②情熱を沸かす③強い意志を持つ④感激性を強く)」  
 「公平であつて、平等であつてはいけない」  
 「常に夢と計画性を持ち、人生意気に感ずべし」

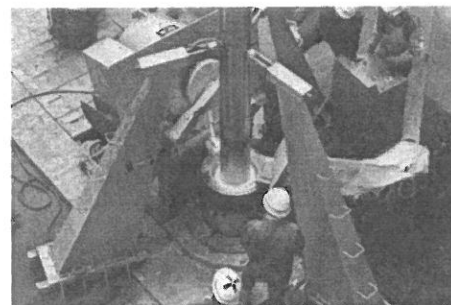
「縦・横の連携を保ち、グループの総合力を発揮すべし」  
 「派閥を禁じ、常に明朗なるべし」  
 「人心の機微に徹し、相互の融和を図るべし」  
 「躰を以つて、社風を培養すべし」  
 (突田芳宏・川邊英一提供、「フジコー20年史、60年史」／植山高次編集)

昨日があったから  
 今日があるから  
 今日があるから  
 明日があるから  
 山本秀祐

揮毫



米国溶接学会権威ドーン博士(中央)嘉村平八九州工大学長(左端)の牧山工場見学で説明する山本秀祐



1974年山陽工場建設当時のCPC肉盛装置

在となった。ここでは工場長に抜擢され工場運営を学んだ。  
 「兵役」は4度の召集を受け通算10年間に及んだ。軍律厳しい兵営で異色の存在として破天荒に振る舞い、階級を超えて人の絆を結んだ。終戦

直前には、スマトラ(インドネシア)のジャングルに送られ、捕虜生活、戦友の死、病魔との闘いを乗り越え、復員。妻子との感激の再会を果たした。山本工作所では創業者の実兄を助けて、ドラム缶製造事業を成功させ山本工作所の基盤を築いた。しかし、家族をも省みず一心に研究に明

け暮れた結果、妻から離縁話を突き付けられ、人生を真剣に考え直した。やがて兄と袂を分かち決心をし自立の道を進む。  
 フジコーに生き続ける  
 「山本秀祐のモットー」  
 「今日の繁栄は過去の遺産であり、明日の繁栄は今日の開発努力に掛かっている」  
 「明るい貧乏をしよう」(今は貧乏でも先に希望があれば明るい)  
 「自分を粗末に扱う人と大切に育て上げる人では後に天と地の差」  
 「人は石垣 人は城 情けは味方 仇は敵」(山本の愛唱歌『武田節』の一節)  
 「企業経営は、生命の争奪が無い戦